



818
600
1890



門不曾4
編 600
卷 118



古城震

古城や五原の如く新細流也

雉城の如くや五原に十字街

葛城や今も五原乃帯曲輪

藤小

琴の緒も糸のや姫の夕暮

懐舊も糸のや姫の夕暮

拙作

城のやまの柵も糸の夕暮

時分

叙の糸の夕暮

高籠も糸の夕暮

うさぎの糸の夕暮

飛文

釣糸の夕暮

橋上朧月

水底に橋濁りりり鏡月

花のよも近ぬ縁や橋の月

橋娘はなまふりふり鏡月

一長橋草や雲ふれ龍のおほる月

松蓬

管年の夢も縁や橋の月

一さ草や兒の橋つる万や縁月

しんぞ

舟の帆と津田と越えや月縁

一朧夜草や圮橋草千語草新二人

藤又

曉月や橋より上も濁り水

一翠岩橋のくゆる縁や明の月

時次

墨田川春曉

隅田川ふる水る音あり浮夜鳥

一翠澹る影む曉さぬくさる

時次

梅美菜旭も白く墨田川

月落し波の曉や静る

あさき水は浅草船よりの雲

浅草の舟をのりて

時次

春空一閑庭を越る朝あけ

咽ゆく雀心や月の影を

春眼や夢さるる都鳥

一曉月水程を渡る常風

時以

一暮秋清々曙草や波に寄

る時

長旅憶帰馬

傀儡女は油了と覺る朝分

一と文を流る友や油了

旅途

爰指と英流はとあまをゆり

能因は爰ふひよりのしる

雨あまの夜々独泣をやゆり

暮山

王墻り罨蒞の汐やうり

張騫り鴨も断ッ飯屋を

唐のうりしも白川の蒞夜ふ

時如

孤震万里唐古々の友ふり

丁亥

海ふふ爰を恨心蒞夜ふ

暮山

山院待花

山寺や花を待つ新法を

山寺や花を待つに川を界

一開く日は平山よ花の奥の院

とて

見湖一 日枝の水坊の庭 松

花待つ何くは寺の甘漬は

山寺くは花待つ寺やまの末

雪の花あはは一山寺のち

一我遊星苑詩翰
泊漱

丁巳

山寺也苑詩翰乃吉

萬山

苑既中龍毛雲收撞檮



不



不



探荷

一
一
一
一
一

好
好
好
好
好

